式　　辞

海風に乗ってさわやかな春の訪れが感じられる季節となった今日の佳き日に、PTA 会長の富永肇様、同窓会長の儀間周倫様をはじめ保護者の皆様方をお迎えして、沖縄県立久米島高等学校第７４回卒業式並びに沖縄県立大平特別支援学校高等部久米島分教室の第７回卒業式を挙行できますことは、在校生及び教職員にとりまして大きな喜びでございます。ご臨席を賜りました皆様方には、心より御礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとう。三年前皆さんが入学後、年号が平成から令和へと変わり、皆さんは令和入学第一号の卒業生ということになります。令和とは、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味だそうです。まさに現在のコロナ禍を予見していたかのような、国民全体で助け・支え合い、新しい生活様式が求められる時代に相応しい年号の持つ意味と言えるでしょう。

こうしたコロナ禍の中、今年度は「久米島高校ニューレガシー」という合言葉の下、卒業生の皆さんは、本当に素晴らしい遺産（レガシー）を在校生へ残してくれました。久米高祭や園芸祭をはじめ多くの学校行事の中で、率先して後輩を引っ張り、先輩としての見事な背中を見せてくれました。きっと後輩である在校生は、皆さんからのレンガシーをしっかりと受け継ぎ、それを更に発展させ、次の世代へと引き継いでくれることでしょう。

「我々は探求をやめてはならない。そして我々のすべての探求の最後は、始めにいた場所に戻ることであり、その場所を初めて知ることである。」

これは、イギリスの作家でノーベル文学賞を受賞した T.S.　エリオットの言葉です。皆さんはこれからそれぞれの人生において、様々な困難に直面することと思います。困難に立ち向かうために、人はそれを乗り越える方策を探求し、克服しながら前に進んで行きます。人生はこうした困難と探求の連続と言っても過言ではないでしょう。社会という大海原への航海がまさにこれから始まりますが、最後はエリオットの言う「始めにいた場所」、すなわち久米島に戻ってきてください。そして誰よりも久米島について知ってください。久米島はいつでも皆さんを待っています。久米島高校そして久米島は皆さんの出発地点であり、そして帰着地点です。実際に戻れないことがあったとしても、心の中ではいつでも久米島が皆さんにとって最後の帰着場所であり、心の拠り所であることを忘れないでください。皆さんの母校である久米島高校、そして久米島はずっと皆さんの頑張りと活躍を応援しています。

皆さんは、私が校長として送り出す初めての卒業生です。皆さんと過ごした今年の一年間は私の誇りであり、生涯忘れることのない貴重な宝物です。皆さんはいつでも私の自慢の生徒でありましたし、そんな皆さんの門出を校長として見送ることが出来ることを最高の幸せに感じます。

終わりになりますが、保護者の皆様方、本日はお子様のご卒業、まことにおめでとうございます。いろいろとご苦労もあったことと思いますが、私の自慢の生徒として、こんなにも立派に育てて頂き、本当にありがとうございました。保護者の皆様方も、お子様同様に、私の自慢で誇りに思う保護者です。皆様のご支援があったからこそ、こんなにも素晴らしい教育活動を展開することが出来ました。重ねて御礼申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ別れと旅立ちの時です。寂しさも募りますが、いつも送り出す側の私たちは、ほほえみと笑顔で持って、これからの皆さんの新たな道での歩みに心からのエールを送り続けています。最高に素晴らしく輝いていた皆さんの前途に幸多からんことを心より祈念し、私の式辞と致します。

令和４年３月１日
沖縄県立久米島高等学校
校 長　　仲 吉　健 一